【報道資料】　　平成２６年３月１９日
ＮＨＫ広報局

NHKスペシャル

シリーズ「“認知症８００万人”時代」

第3弾　放送決定のお知らせ

去年、厚生労働省の研究班は、認知症高齢者が推計462万人、予備軍を含めると800万人に上ると発表しました。そうした中、国は新たな認知症施策の5か年計画「オレンジプラン」をスタート。認知症の人を施設ではなく、住み慣れた自宅などで介護する「在宅型」へと大きく舵を切っています。

自宅で介護することで何が起きるのか。家族は、そして社会は、一人暮らしの高齢者が増え続ける現実とどう向き合っていけばよいのか。

シリーズ「“認知症800万人”時代」。去年11月、在宅介護や“漂流”する高齢者の現実を見つめ、私たちが向き合うべき課題を浮き彫りにするドキュメンタリーを2夜連続で放送し、大きな反響をいただきました。5月、新たに第3弾を放送することが決まりましたので、お知らせします。

「追跡　埋もれた“徘徊（はいかい）”行方不明者」（仮）

放送：総合テレビ　5月11日（日）午後9:00～9:49 予定

さまよった果てに、人知れず命を落とす認知症高齢者――
行方不明になって以来、見つからないまま、絶望とかすかな希望の間で揺れ動く家族――

認知症の人、認知症の疑いがある人が徘徊などで行方不明に…。こうした“徘徊”行方不明者の届出件数を、去年、警察庁が初めて公表した。その数は、２０１２年の１年間で９，６０７人にも上る。さらに年間３５９人が死亡し、未発見のままの人が２００人以上もいるという、驚くべき実態も明らかになってきた。無事発見されても、また徘徊を繰り返し家族が疲弊していく例も相次いでいる。

しかし、“徘徊”行方不明者のほとんどは、事件でも事故でもないため、これまで情報が公開されず、まとまった形で実態が明らかにされることもなく、埋もれ続けてきた。

番組では、全国各地の警察への取材や自治体アンケートなども行い、“徘徊”行方不明者の実態と全体像を初めて明らかにする。パトロールや保護の現場、届け出た家族の生活を見つめるとともに、“徘徊死”の実態にも迫る。また、動き出した対策の現場も取材。浮き彫りになる課題を見つめ、悲劇を少しでも減らすために社会はどうすれば良いのか、考えていく。